

# 令和6年度学校経営報告

東京都立府中工科高等学校  
校長 高野 学

## 1 今年度目標達成に向けた取組みの成果と課題

### (1) 概要

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に分類され、今年度はほぼ通常通りの教育活動を行うことができた。年間を通じて教室等での対面での授業を行い、途絶えていた学校行事等も復活させ、希薄になった人と人とのつながりがもてる機会を再び作り出すことができた。

工業高校改革が進展し、令和5年度に工科高校と学校名を変え、カリキュラムでは特に情報教育及び英語教育そしてPBL授業の充実が求められた。本校においては、P-TECH事業施行から3年目となりDX人材育成プログラムの完成年度を迎えた。

授業料の無償化の動きに伴って、中学生の私立高校志願者の増加傾向がさらに強まった。工科高校においてもここ数年志願者が減り続け、本校も昨年に引き続き学力選抜一次募集では合格者人数が募集人数を下回った。

### (2) 今年度における取組目標

工科高校改革を進展させ、生徒の力を真に伸ばし、中学生や広く都民から魅力ある工科高校として認知されることを目指す。

### (3) 達成に向けた具体的方策の成果と課題

具体的方策	成果と課題
ア 学習指導	
①新学習指導要領に基づいた各教科シラバスを作成し、「AL的手法」「ルーブリックを活用した評価」を行い、指導と評価が一体化した授業を実践する。	指導と評価の一体化を目指した観点別評価を実施。今後実践を繰返すことで評価項目の精度を上げることが課題。授業のねらいを冒頭に明示し、最後に振り返りを行う授業展開をシートや一人一台端末を活用して実践した。
②PBLを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。	金沢工科大学と連携しPBL教授法の教員研修、授業実践研究を実施。大日本印刷と連携しアントレプレナーシップ教育を実施。P-TECHにおいてビジネスアイデアコンテストを実施。
③一人一台端末を有効に活用し、効果的・効率的な授業を展開する。	ほぼすべての授業において端末を活用した授業が行われている。新たにインタラクティブボードを導入し、授業のICT化を進めている。生徒のICTリテラシーは向上している。
④少人数指導を生かし、一人一人に寄り添った個別最適な学びを実現する。	国語科、数学科、英語科、家庭科、体育科および専門教科で、少人数授業を実施した。
⑤P-TECH事業を有効に活用し、教育目標を達成するためのカリキュラムを構築する。	施行から3年目となり3年間通じたカリキュラムが完成した。今後、内容を検証しカスタマイズする。特別時間割から通常的时间割の中に落とし込み展開していく授業形態を模索する。
イ 進路指導	
①複数の国家資格（機械検査、第二種電気工事士、ITパスポートなど）取得を目指す。	第2種電気工事士資格取得者は、82名を超え全国の高校の中で第1位となった。ジュニアマイスター顕彰では、ブロンズに23名、シルバーに8名、ゴールド特別賞に1名が選ばれた。
②「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な進路指導を行う。	進路指導部主導による3年間を見通した進路指導の実現に向け、課題を精査した。進路の手引きの見直しを今後行う。

③進路調査や基礎学力試験等を行い、生徒の能力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。	基礎学力試験を行わなかったことなど、進学指導に関して十分な指導ができていなかった。進学希望者が増加傾向にあり、生徒や保護者からの進学指導への要望もある。次年度に向け進学指導計画を見直し進学希望者への指導を改善する。
④インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。	3日間で実施。企業会社への事後アンケートでは本校の生徒への評価が高く、生徒の事後アンケートではほとんどの生徒が、有意義であったと記した。次年度も同様の形式で実施する。
⑤専門教科における実習や教科「人間と社会」体験活動、そして学校行事、部活動等を通じて、自己理解・他者理解を深め、思いやりの心、社会性を育成し、自己実現を目指す。	新型コロナウイルス感染症による影響もなく、ほぼ通常通りの体験活動を行うことができた。 人権尊重教育推進校2年目として、研究授業、有識者による講演会、特別支援学校、小学校、地域団体と人権に関わるテーマでの交流会等を実施した。
ウ 生活指導	
①朝の立ち番指導を行い、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。	生活指導部による朝の立ち番指導を通年行った。身だしなみに大きな乱れは無く、落ち着いた環境が保たれている。自転車ヘルメットの所持率はほぼ100%と成果を上げている。SNSの正しい利用法などに課題がある。
②保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。	遅刻は特定の生徒に偏っている。今後、一層学校と家庭との連携を密にし、指導を継続する。
③「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にしない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。	今年度はいじめに関する報告は1件。他者とのコミュニケーションに課題のある生徒は少なからずいる。スクールカウンセラーと教科担任そしてクラス担任との連携体制を構築し、丁寧な指導に当たる。
④授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。	セーフティ教室や教科「工業情報数理」の授業内で指導を行った。生徒間でのSNSにかかわるトラブルは増加傾向にある。
⑤各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。	1年生で防災訓練を、2年生は上級救命救急講習会を実施した。
エ 特別活動・部活動指導	
①部活動・特別活動および体育の授業において、心身の健康、体力の向上を目指す。	感染症による影響が残りながらも、修学旅行、体育祭、文化祭、マラソン大会等はほぼ例年通りの内容で行うことができた。
②文化スポーツ特別推薦を活用し、部活動に対する意欲のある生徒の入学を促す。	文化スポーツ特別推薦を実施。卓球部2名、野球部13名の応募があった。
③部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組む活躍する機会を作り出す。	部活動加入率は95.1%と昨年を上回った。野球部が夏の大会で西東京ベスト16に進出。
④「2020オリンピック・パラリンピック教育レガシー」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。	笑顔プロジェクトによるスチールパンオーケストラの公演を行い、海外の歴史や文化に触れ国際感覚を磨く機会とした。
⑤行事や集会等における校歌斉唱、地域への貢献や奉仕活動等などの取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。	年間通じて式典行事では校歌を斉唱した。 自動車整備部、鉄道研究部、硬式野球部、生徒会が近隣の小学校や特別支援学校、地域の方々との交流活動を行った。

オ 保健指導	
①スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。	ケース会議を学期に1回ペースで開催した。学年ごとにそれぞれが主体的に動き対応している。今後はより一層頻繁にカウンセリング委員会等を開催し、学校全体で組織的に対応できる体制を作っていく。
②感染症対策を施し環境整備に努め、清掃活動を徹底し清潔で明るい学習環境をつくる。	HRにおいて日常的に教室等の換気、清掃を行った。手の消毒液は引き続き昇降口等に常備した。
③特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。	約3年間の感染症蔓延による影響もとれる、学校不適應生徒の増加がみられる。スクールカウンセラーを置く相談体制を内外に周知し、利用される相談体制を目指す。
カ 募集・広報活動	
①学校案内パンフレットの作成およびHPのリニューアルを行う。	内容を改定した学校案内パンフレットを、教員による中学校訪問等で各中学校へ配布した。
②中学校訪問および生徒による母校訪問、見学会・説明会・体験授業・体験入部を実施する。	夏の見学会参加者 358 組 秋の説明会参加者 254 組 (昨年 161 組) いずれも昨年を上回る人数の参加者があつた。
③校舎前面に懸垂幕の設置、校門横の掲示板の有効活用を図る。	懸垂幕には2本ののぼりを掲示。掲示板には学校案内パンフレットを掲示した。
④近隣中学校や地域との交流を行う。	卓球部、野球部、情報技術部が、各2回の体験入部を実施。
キ 学校経営・組織体制	
①デジタル技術を活用しDXを進め業務の質を高めるとともに、ICT環境を最大限活用して生徒の学びを保障する。	庶務事務システム、校務支援システム、採点システムの運用を促す校内研修を実施。Classiの活用も順調に進んでいる。
②日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり、服務事故防止に努める。	定期的に管理職による事故防止研修を実施。適宜、注意喚起を行っている。7月に個人情報の紛失事故1件。その後、事故防止研修を実施。都度相互に注意喚起を行い再発の防止に努めた。
③体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。	教職員の体罰不適切な行為に関する意識は高い。部活動指導方針に、体罰にかかわる事項を追記させている。教職員は定期的な研修等を行い自己研鑽している。
④管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。職員会議の上限時間を1時間以内とする。	部活動指導が原因で80時間越え超過勤務者が数名いる。部活動指導等の業務が一部の教員に偏らないための工・夫が必要である。
⑤防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携し実践的な防災教育を推進する。	水道局と連携した2年生防災活動を実施。避難訓練を、火災や地震発生時を想定して年4回実施した。

## (3) 数値目標と達成度

項目	数値目標	昨年数値	令和6年度
就職内定率	100%	100%	100%
進学決定率	100%	92%	100%
サポーター企業の活用	10社	12社	12社
資格取得者数			
機械検査三級	25名	10名	10名
第二種電気工事士	100名	95名	82名
第一種電気工事士	20名	22名	12名
ITパスポート	5名	4名	0名
工事担任者(第二級デジタル通信)	40名	0名	0名
資格検定5つ以上取得者数	120人	123名	110名
部活動加入率	85%	80.8%	95.1%
遅刻数	2000件	1586件	1626件
いじめ・体罰件数	0件	1件	1件
ホームページ閲覧数	20万	39万	42万
学校説明会参加者数	900人	940名	1200名
入学者選抜応募倍率			
推薦選抜	1.5倍	1.3倍	1.63倍
学力選抜	1.1倍	0.94倍	1.1倍
退学者の減少(対全生徒比)	0.4%	0.4%	0.01%
学校満足度(学校評価アンケート)			
生徒	80%	74.6%	79.5%
保護者	80%	74%	93%